



2011 Formula Nippon
Project μ /CERUMO・INGING Race Report
第7戦 ツインリンクもてぎ

□ 11月6日 (日) 決勝

#33 国本 雄資 Race1:4位/Race2:失格

< 決 勝 > 天候:雨 | コース状況:セミウエット

今季初の2レース制で行われる今季最終戦。その舞台となるツインリンクもてぎは、前日からの予報が生憎的中し、未明からの雨に煙ることとなった。昨日からコンディションが一転したことから、スタート手順が変更となり、23周で争われるレース1の前に設けられたウォームアップ走行が13分間に拡大されることに。このため Project μ /CERUMO・INGING のスタッフたちは早朝からセットアップの変更など忙しく準備を整えることとなった。

午前9時30分、降雨はほぼ止んでいるものの WET 宣言が継続されている中、ウォームアップがスタートすると国本は、ウェットタイヤでまずはコースイン。アウト&インでピットに戻ると、フロントの車高に調整を加え、もう1セットのレインタイヤに履き替えて再びピットを離れる。ところが、ここで小暮卓史がスピン~ストップを喫したためセッションは赤旗中断に。

ポツリポツリと時折雨粒がピットロードに落ちてくる中、午前9時40分に再開されたセッションに臨んだ国本は、残りの周回で1分48秒433にまでタイムアップ。モニターの6番手につけ、いよいよ決勝を迎えることとなったが、このセッション中にもスリックに履き替える陣営が多く、チームは国本と話し合った結果、グリッドにはスリックタイヤを装着して向かうこととなった。

グリッド上でも多くの陣営がタイヤ選択に悩んだ結果、天候は回復傾向にあるとして Project μ /CERUMO・INGING は他の多くのマシン同様、国本をスリックタイヤのままスタートさせることを決定。山本尚貴、アンドレア・カルダレリ、そして嵯峨宏紀の3台だけがレインタイヤでのスタートとなった。

不安定なコンディションながら、23周というスプリント勝負となったレース1。レッドシグナルが消えると国本は好スタート。動きだしの鈍かった小暮をパスすると、9~10番手あたりのポジションで1コーナーへ進入する。ところが、1~2コーナー間で国本の前方を走っていた石浦宏明とカルダレリが接触、2台がコースアウトするアクシデントが発生。イン側のラインからうまくこの混乱を避けた国本は、一気に7番手にジャンプアップを果たす。

絶好の展開でオープニングラップを終えた国本は、レインタイヤを装着もペースの上がらない4番手山本から連なる集団の中で大嶋和也、伊沢拓也らと接近戦を展開する。

序盤のペースにポイントを置いてセットアップを施したマシンはフィーリングも翌、国本は4周目には大嶋に続いてヘアピンからの立ち上がりで山本をパスし、6番手に浮上。序盤3番手を走行していたジョアオ・パオロ・デ・オリベイラにドライブスルーペナルティーが科せられたことから、さらに5周目に5番手にポジションを上げると、前の開けた国本はどんどん乾いて行く路面状況にも後押しされ、毎周自己ベストラップを更新する力強いペースで周回を重ねて行く。

ところが、路面が良くなってくると逆にセットアップがマッチしなくなり、国本は自己ベスト更新は続けているものの、後半はよりペースの速い伊沢の追走を受ける展開に。しかし、コンマ数秒差で食らいついて来ていた伊沢がマシントラブルで20周目にスト

ップ、さらに3番手の大嶋がブレーキトラブルから90度コーナーでコースオフ。残り3周となって、国本は運にも恵まれて4番手に浮上を果たす。

終盤小暮が迫ったものの、国本はそのまま4位でチェッカー。トリッキーなコンディション下での波乱のレースを見事自己最高位でフィニッシュし、2レース制のためハーフポイントながら2.5ポイントを追加することとなった。

ピットウォークなどを終えた午後1時45分、レース2に向けた8分間のウォームアップ走行が始まると、国本はまずレインタイヤでコースイン。アウト&インでピットに戻ると、スタッフたちは34週のレース2の間に義務付けられているタイヤ交換を本番さながらの素早い作業でこなし、スリックに履き替えた国本は再びコースへ。ここで1分38秒380までタイムを上げた国本は、ついにシリーズ最終戦のグリッドに向かうこととなった。

しかし、グリッド上では細かい霧雨が降り続く状況になり、チームと国本はレインタイヤへ履き替えることに。最終的にはやや雨脚が強まり、気温18度、路面温度19度と冷え込んで行く中、全車レインタイヤでのスタートとなった。

レッドシグナルが消え、イン側12番グリッドから最終戦のスタートを切った国本だったが、思いのほか動き出しが鈍くポジションを落としながら1~2コーナーをクリア。密集状態の集団の中、そのままのポジションで5コーナーへとアプローチした国本だったが、予想に反して前車たちのブレーキングが早く、追突を避けるため国本は痛恨のコースアウトを喫してしまう。

これで最後尾までドロップした国本だったが、すぐさま前に行く小林崇志を捕らえて16番手とすると、今度は15番手のアレキサンドレ・インペラトリーを追う。しかし、そのインペラトリーが前の武藤英紀をパスし、国本のターゲットは武藤に入れ替わる。

強まり始めた雨の中、果敢に武藤を攻める国本は、いったん6周目の1コーナーで武藤を捕らえることに成功するが、難コンディションの影響でヘアピンでコースオフを喫しポジションは16番手のまま。7周目の5コーナーで再び武藤をパスした国本は、インペラトリーのスピンアウトなどもあり、一気に14番手に。さらにポジションアップを狙う国本ながら、9周目のヘアピンで山本と伊沢が接触するアクシデントが起こり、脱落したパーツがコース上に散乱。このため、コースにはセーフティーカーが導入されることになった。

SCランとなった10周目を終え、まもなく11周目に入ろうかと言うところで、突然信じられない光景がモニターに映し出される。セーフティーカーの後ろで隊列を整えつつあった集団の後方で多重クラッシュが起こり、複数のマシンが大きなダメージを受けてコース上やグリーン上にストップしてしまったのだ。そしてその次の瞬間、なんとモニターにはグリーン上で大破した国本のマシンが！ピットで息をのむスタッフ達.....。

SCの後方で多くのマシンがコース幅いっぱいになりながら蛇行する状況となったことから、前車の巻き上げるウォータースクリーンで視界を失っていた国本が、隊列に追いつこうとしていたところで突然水煙の中に前走車を発見するも、止まり切れず追突してしまったために起こったクラッシュだった。すぐさまレースは赤旗中断に。左側フロントサスペンションを失い、リヤ周りにも大きなダメージを受けた33号車のコクピットから、力なく国本が立ち上がる。

複数のマシンがこのアクシデントに巻き込まれるも、誰も大きな怪我をすることなく済んだことは不幸中の幸いながら、あまりに大きなダメージを負った国本のマシンはレース再開までに修復が叶わず、残念ながらそのままリタイヤを余儀なくされる結果に。さらにレース終了後、立川監督とともにコントロールタワーに召還された国本には、危険なドライブ行為があったとして失格およびペナルティポイント3点という厳しい裁定が下る。

レース1では自己最高位を更新する健闘を見せながら、レース2では今季最大のクラッシュを喫してしまった国本とProject μ/CERUMO・INGINGにとって、今季最終戦は悲喜交々といったレースウィークとなったのだった。

ドライバー／#33 国本 雄資

「レース 1 ではスタートがかなり良く順位を上げられたのですが、さらに1コーナーでのアクシデントをうまくイン側からかわすことが出来たので、1周目に大きく順位を上げることが出来ました。難しいコンディションでしたが、グリッド上でもセットを大きく変えるなどしてもらったお陰で、序盤の濡れている路面でのペースは非常に良かったと思います。後半どんどん路面が乾いて来たところでは、ややオーバーっぽい症状が出て苦戦しましたが、こういうレースは序盤勝負になることが多いので、そこで良いペースで走れたことは良かったと思いますし、4位ということでもうちょっとで表彰台だったんですが……。レース2では最終戦ということで、今季一番のレースをしたいと考えていたのですが、スタートに失敗して1周目に大きくポジションを落としてしまいました。その後クルマ自体は良かったと思うのですが、視界が悪くてペースが上げられず、SCが入ったところで前が何も見えない状況で追突してしまって……。もっと隊列は前方にいるイメージで走っていたこともあり、あまりに急なことで止まり切れませんでした。結果としてシリーズの最後に大きなクラッシュをしてしまいましたし、レース2では展開的にも良いところがなくて悔しい最終戦になってしまいました」

監督／立川 祐路

「最初のレース 1 は本当に良かったですね。昨日話していたように、ウエットから乾いて行くという難しいコンディションになり、状況的に乾いて行くだろうことは容易に想像出来たので、チームとしてタイヤ選択に悩むこともありませんでしたから、レース1に関してはスタートも良かったですし、特に濡れたコンディションの序盤でドライバーが良く頑張ってくれた結果だと思いますね。出来ればレース2ではさらに自己最高位を更新してもらって、表彰台を狙って欲しかったのですが、スタートから徐々に雨が酷くなって行き、水の量が多く視界が悪化し難しい状況になってしまって。そんな中 SC ラン中に前車に追突してしまうという結果となったわけですが、いかなる状況下でも SC ラン中はドライバーとチーム側が気をつけなければならないことですから、アクシデントに巻き込んでしまった他のチームに迷惑を掛けてしまって申し訳なく思います。しかし、今年1年を振り返れば、開幕前に十分なテストが出来ないまま開幕したシーズンでしたが、ルーキーながら国本は予選で時折速さを見せてくれましたし、後半徐々に決勝でも安定した速さを発揮出来るようになり、最高峰の激戦の中でポイント獲得も果たしてくれました。最終戦でのクラッシュは残念でしたが、良い意味で右肩上がりの状態でシーズンを終えることとなったと思います。国本はもちろん、チームとしても今季は来年に向けての良いステップになったという手応えを感じられましたね。1年間、国本と Project μ/CERUMO・INGING を応援して頂き、どうもありがとうございました」